福島県立医科大学々報

目　　次

○ 学　　事

平成20年４月７日入学式学長式辞 …… 2

平成20年度入学者数 …… 3

平成19年度医学博士授与者（後期） …… 3

○ 人　　事

役員・経営審議会委員・教育研究審議会委員・企画室・評価室・知的財産管理活用オフィス・危機管理室・トランスレーショナルリサーチセンター・監査室・名誉教授・部局長等・新任教授・新任准教授・新任講師・新任事務局職員等・大学健康管理センター …… 4

新任あいさつ …… 7

・理事長兼学長　菊地臣一

・副理事長（企画・人材開発担当）　丹羽真一

・総合科学教育研究センター長兼医療人育成・支援センター長　藤田禎三

・理事（医療担当）兼附属病院長　竹之下誠一

・附属学術情報センター長　八木沼洋行

・トランスレーショナルリサーチセンター長　錫谷達夫

・医学部　内科学第一講座　教授　竹石恭知

・看護学部　総合科学部門　教授　中山　仁

○ 諸 規 程 改 正

平成20年２月から５月までの諸規程の制定改廃関係 …… 10

○ 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会

役員会 …… 12

経営審議会 …… 12

教育研究審議会 …… 12

医学部教授会 …… 13

看護学部教授会 …… 13

○ 雑　　報

倫理委員会 …… 14

この冊子は再生紙を使用しております。

学　　事

■ 平成20年４月７日 福島県立医科大学入学式

学長式辞

福島県立医科大学長　菊　地　臣　一

本日ここに、福島県知事様、福島県議会議長様のご臨席と保護者の皆様のご列席のもと、平成20年度福島県立医科大学入学式を挙行できますことは、本学にとってこの上ない慶びであります。ただいま入学を許可された医学部95名、看護学部90名、また、大学院医学研究科37名、看護学研究科８名の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。特に今年度は、大学院医学研究科に修士課程として医科学専攻が開設され第１期生８名の皆様を迎えることができました。今、皆さんは念願であった本学への入学が叶い、これから医学あるいは看護学への道に進む喜びを、強く実感されていることと思います。人生における本学でのこの出会いを大切にしてください。人生は出会いに尽きます。出会いは、自分の人生を豊かにし、成長させてくれます。

本学は、設立基盤となった福島県立女子医学専門学校が昭和19年に創立されて以来、60有余年の歴史をもっており、建学の精神はさらに遡り、後藤新平も学んだ明治初期の須賀川医学校に辿りつくことができます。皆さんはこのような伝統ある本学に学ぶことに、自信と誇りを持ってこれからの道を歩んでいただきたいと思います。また、今年度は、昭和63年に杉妻町から光が丘キャンパスに移転しまして20周年、看護学部にあっては設置10周年となる節目の年となり、まさに記念すべき年に皆さんは入学されました。どうか皆様には、本学の学生であることの自覚を持って勉学に励むことを強く期待する次第です。

さて、医学部、看護学部に入学した皆さんがこれから学ぼうとする医学・看護学は、病を防ぎ、癒し、そして健康に過ごしたいという、人間の根源的な願望に応えようとする学問であり、その実践が保健・医療・福祉です。将来、皆さんが医療職者として、保健・医療の現場で向かい合う相手は、突然の病に苦悩している一人の人間です。そして医療や看護の現場は不条理と矛盾に満ちています。不条理と矛盾に満ちている医療の現場で、病める人に対する医療・看護の従事者には共感と包容できる人間的な力が求められます。ですから、医療に携わる者は、知識や技術を駆使できる医療職者である前に、人を思い遣る心に満ち、かつ人に信頼されるだけの教養や倫理観を兼ね備えた良識人でなければなりません。

本学が掲げる三つの理念を申しあげます。まず最初は「ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育・育成する」ことであります。学びの現場では「修業とは矛盾に耐えること」という格言があります。それを胸に刻んで学生生活を送ってください。皆さんは学生生活の中で、専門とする医学・看護学を学ぶことは勿論のこと、広く教養と学識を身につけ、さらにクラブ活動や学内外の人との交流を通して自らを磨き、円満な人格と優れた倫理観、そして自らに誇りを持った医療人になれるよう努めてください。最後に自らを支えてくれるのは「誇り」です。理念の第二には「最新かつ高度な医学および看護学を研究・創造する」と謳われています。事象を客観的に観察して問題点を見出し、論理的に解決しようとする科学者としての見方と考え方を、学生の間に修得するよう努めてください。その為には、巌に爪を立てるような努力とそれを愚直に継続することが必須です。皆さんは、これから６年間あるいは４年間にわたり、専門医療職者に必要な多くの知識・技術を身につけてゆくことになります。しかし、その基盤である医学・看護学は常に進歩し続けています。ですから、医学・看護学の道を選択した皆さんは今後、生涯にわたって常に学ぶ心構えが必要です。理念の第三には、「県民の基幹施設として全人的・統合的な医療を提供する」と掲げられています。本学を基点とする全人的・統合的な医療が県内にあまねく実現できるよう努めることは、本学の責務であり理念でもあります。本学は、平成18年度から公立大学法人となりましたが、福島県が設置者であることに変わりはありません。いかに、地域に貢献できるかが本学にとって重要な課題であります。皆さんは入学後に地域医療に接する機会があると思いますが、学生生活を通じて地域の保健・医療への関心と理解を深め、将来、医療人として活躍するときの糧としてくださるよう希望します。

次に、大学院に入学された45名の皆さん。皆さんは医学や看護学の理論・応用の研究を深め、医学・看護学のさらなる進歩・発展に寄与する志をもって入学されました。今日のような高度化、多様化、複合化した保健・医療に対応し、更なる向上を図るためには、医学・看護学の深奥を極める研究の推進が欠かせません。大学院は、医学・看護学の研究者あるいは研究能力を備えた医療関係者を養成するものであります。同時に、研究を通じて社会人、そして組織人としての行動規範を学ぶことにもなります。どうぞ大学院生活を通して、研鑽に励み探求能力と創造性を備えられますよう願っています。

最後になりますが、本学をとりまく雄大な自然と恵まれた施設環境のもと、皆さんが充実した学生生活を送られ、大きく成長されることを願って式辞といたします。

■ 平成20年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生　95名

	男	女	計
県　内	21　名	19　名	40　名
県　外	33　名	22　名	55　名
計	54　名	41　名	95　名

② 看護学部新入生　90名（うち３年次編入生８名）

※（編入生）は外数

	男(編入生)	女(編入生)	計(編入生)
県　内	７名(０名)	59名(６名)	66名(６名)
県　外	１名(０名)	15名(２名)	16名(２名)
計	８名(０名)	74名(８名)	82名(８名)

③ 大学院新入生　45名

	男	女	計
医学研究科（博士課程）	20　名	9　名	29　名
医学研究科（修士課程）	3　名	5　名	8　名
看護学研究科（修士課程）	2　名	6　名	8　名
計	25　名	20　名	45　名

医学研究科（博士課程）

地域医療・加齢医科学専攻	８名
機能制御医科学専攻	７名
精神医科学専攻	９名
分子病態医科学専攻	５名

看護学研究科

がん看護学領域	１名
精神看護学領域	４名
生態看護学領域	３名

■ 平成19年度医学博士授与者（後期）

〔平成20年３月授与〕

氏　名	学　位　論　文　名
江月　将史	Survival and recovery of apheresis platelets stored in polyolefin container with high oxygen permeability （高酸素透過性バッグで保存したアフェレーシス血小板の生体内寿命と回収率）
TOLEDO SALAS JUAN CARLOS	Penile erection and micturition events triggerd by electrical stimulation of the mesopontine tegmental area （中脳橋被蓋の電気刺激によって誘発された陰茎勃起と排尿反応）
石亀　輝英	CLOCK/BMAL 1 Transactivation Complex Is Involved In Circadian Rhythm of Topoisomerase 1 （CLOCK/BMAL 1 転写複合体のトポイソメラーゼ１のサーカディアンリズムへの関与）
藤田正太郎	BMAL 1/CLOCK Activate HIF-1α Expression and Induce Circadian Rhythm of Human Vascular Endothelial Growth Factor （BMAL 1/CLOCK に制御される HIF-1α を介した VEGF のサーカディアンリズム）
鈴木　輝久	Regeneration of the Trachea Using a Bio-engineered Scaffold With Adipose-Derived Stem Cells （脂肪組織由来幹細胞を用いた bio-engineered scaffold による気管再生）
東本　昌之	Thymidine Phosphorylase as a Target for Inflammatory Bowel Disease: Inhibition of Thymidine Phosphorylase May prevent Inflammatory Bowel Disease Through Suppression of Reactive Oxygen Species （炎症性腸疾患の標的分子としてのチミジンホスホリラーゼ：活性酸素を抑制することで、チミジンホスホリラーゼ阻害剤は炎症性腸疾患を改善すると考えられる）
谷田部淳一	A Novel Approach for Amelioration of the Changes Associated with Hypertension in Rats by Combined, Kidney-Specific Knock-Down of G Protein-Coupled Receptor Kinase 4 and Angiotensin Ⅱ Type 1 Receptors （ラットにおける、高血圧ならびに高血圧合併症治療に関する新しいアプローチ、G蛋白共役型受容体キナーゼ４型とアンジオテンシンⅡタイプ１受容体発現抑制による検討から）
坂本　　渉	Overexpression of Both Clock and Bmal 1 Inhibits Entry to S phase in Human Colon Cancer Cells （Clock, Bmal 1 の強制共発現は大腸癌細胞株において細胞周期のＳ期への進入を阻害する）
阿部　宣子	Clinicopathological Significance of Lymphangiogenesis Detected by Immunohistochemistry Using D 2-40 Monoclonal Antibody in Breast Cancer （乳癌における D 2-40抗体を用いた免疫組織学染色により検出されたリンパ管新生の臨床病理学的意義）

小林　秀男　Involvement of EphB 1 receptor/ephrinB 2 Iigand in neuropathic pain
（神経因性疼痛モデルにおける EphB 1 受容体/ephrinB 2 の関与）

菅野　伸樹　Quality of life after operation among Japanese hip fracture patients : a hospital-based prospective study
（日本における大腿骨頸部・転子部骨折のクオリティーオブライフ：一つの病院における前向き研究）

野本　幸男　The effect of fibroblasts on epithelial regeneration on the surfase of the bioengineered trachea
（生物工学的気管の表面における上皮再生に対する線維芽細胞の効果）

添田　暢俊　An Improved Rapid Quantitative Detection and Identification Method for Universal Pathogenic Fungi by Real-Time PCR and GeneScan Combination Assay
（すべての病原性真菌を迅速に定量し、同定できる検出法（リアルタイム PCR・GeneScan アッセイ）の改良）

髙橋晋一郎　鉄輸送関連タンパク Nga 1 レセプターの配列解析と中枢神経系における分布

北村奈央子　H 9 c 2 細胞の Kv 2.1電流に対するパクリタキセルの抑制作用

工藤　明宏　Thiazolidinedione, a PPARγ Agonist, Increases Insulin Sensitivity via the Upregulation of Adiponectin Receptor in 3T3 L1-Adipocyte
（PPARγアゴニストであるチアゾリジン誘導体は 3T3-L1 脂肪細胞において、adiponectin 受容体の発現増強を介しインスリン作用を増強する）

平井　裕之　The interaction between resistin and adiponectin on rat-vascular smooth muscle cells proliferations
（レジスチンの培養血管平滑筋細胞増殖作用とアディポネクチンによる相互作用についての検討）

大谷　　聡　Expression of tight junction-associated proteins in human gastric cancer : Down regulation of claudin-4 correlates with tumor aggressiveness and survival
（胃癌における tight junction 関連蛋白の発現の検討：Claudin-4 低発現は癌の進展と予後に関連する）

戸嶋　雅道　急性虫垂炎の診断における Multi-detector-row computed tomography と C-reactive protein の有用性の検討

冨田晋太郎　インターフェロンα感受性／非感受性腎癌細胞株における suppressor of cytokine signaling（SOCS）発現の差異と SOCS 遺伝子をターゲットとした siRNA によるインターフェロン感受性の回復

佐藤　秀三　Association of anti-Triosephosphate isomerase antibody and neuropsychiatric disease in lupus-prone mice
（ループスモデルマウスにおける抗トリオースフォスフェートイソメラーゼ抗体と精神神経症状との関連性）

人　　事

（平成20年6月1日現在）

◎役　員

20.4.1	理事長	菊地　臣一
20.4.1	副理事長（企画・人材開発担当）	丹羽　真一
20.4.1	理事（教育研究担当）	藤田　禎三
20.4.1	理事（経営・渉外担当）	平子　　健
20.4.1	理事（医療担当）	竹之下誠一
20.4.1	理事（管理運営担当）	野崎　洋一
20.4.1	監事	紺野　邦武
20.4.1	監事	高橋　宏和

◎経営審議会委員

20.4.1	議長	菊地　臣一（理事長）
20.4.1	委員	丹羽　真一（副理事長）
20.4.1	委員	平子　　健（理事）
20.4.1	委員	竹之下誠一（理事）
20.4.1	委員	野崎　洋一（理事）
20.4.1	外部委員	玄侑　宗久
20.4.1	外部委員	根本　良一
20.4.1	外部委員	林　由美子
20.4.1	外部委員	前原　和平
20.4.1	外部委員	渡辺　健寿

◎教育研究審議会委員

20.4.1	議長	菊地　臣一（学長）
20.4.1	委員	藤田　禎三（副学長）

20.4.1 委員　阿部　正文
（医学部長）
20.4.1 委員　中山　洋子
（看護学部長）
20.4.1 委員　竹之下誠一
（附属病院長）
20.4.1 委員　㈱阿部　正文
（医学研究科長）
20.4.1 委員　横田　素美
（看護学研究科長）
20.4.1 委員　八木沼洋行
（附属学術情報センター長）
20.4.1 委員　本間　　好
（医学部附属生体情報伝達研究所長）
20.4.1 委員　丹羽　真一
（副理事長）
20.4.1 委員　野崎　洋一
（理事）
20.4.1 委員　横山　　斉
（附属病院副病院長）
20.4.1 委員　福島　哲仁
（医学学生部長）
20.4.1 委員　太田　　操
（看護学学生部長）
20.4.1 委員　岡田　達也
（医学部教授）
20.4.1 委員　志賀　令明
（看護学部教授）
20.4.1 外部委員　金澤　一郎
20.4.1 外部委員　川原　礼子

◎企画室
20.4.1 室長　丹羽　真一
（副理事長）
20.4.1 副室長　八木沼洋行
（医学部教授）
20.4.1 室員　大平　弘正
（医学部教授）
20.4.1 室員　福島　哲仁
（医学部教授）
20.4.1 室員　横山　　斉
（附属病院副病院長）
20.4.1 室員　岡田　達也
（医学部教授）
20.4.1 室員　黒田眞理子
（看護学部教授）
20.4.1 室員　鈴木登三雄
（事務局次長）

◎評価室
20.4.1 室長　平子　　健
（理事）
20.4.1 副室長　平岩　幸一
（医学部教授）
20.4.1 室員　挾間　章博
（医学部教授）
20.4.1 室員　大平　弘正
（医学部教授）
20.4.1 室員　岡田　達也
（医学部教授）
20.4.1 室員　真壁　玲子
（看護学部教授）
20.4.1 室員　鈴木登三雄
（事務局次長）

◎知的財産管理活用オフィス
20.4.1 室長　平子　　健
（理事）
20.4.1 副室長　錫谷　達夫
（医学部教授）
20.4.1 室員　和栗　　聡
（医学部教授）
20.4.1 室員　本間　　好
（医学部教授）
20.4.1 室員　大森　孝一
（医学部教授）
20.4.1 室員　本多たかし
（看護学部教授）
20.4.1 室員　松岡　有樹
（医学部准教授）
20.4.1 室員　鈴木登三雄
（事務局次長）

◎危機管理室
20.4.1 室長　野崎　洋一
（理事）
20.4.1 室員　鈴木登三雄
（事務局次長）
20.4.1 室員　小野　俊六
（附属病院事務部長）
20.4.1 室員　熊本　俊博
（事務局参事兼総務課長）
20.4.1 室員　関根　宏幸
（企画財務課長）
20.4.1 室員　関根　俊一
（学生課長）
20.4.1 室員　清野　隆彦
（病院経営課長）
20.4.1 室員　五十嵐宏治
（病院経営課医療連携・相談室長）

20.4.1 室員　鈴木　賢司
（医事課長）
20.4.1 室員　北原　和子
（看護部長）

◎トランスレーショナルリサーチセンター
20.4.1 センター長　錫谷　達夫
（医学部教授）
20.4.1 副センター長　竹石　恭知
（医学部教授）

◎監査室
20.4.1 室長　岡田　達也
（医学部教授）

◎名誉教授
20.4.1　髙地　英夫

◎部局長等
兼務 20.4.1 学長　菊地　臣一
（理事長）
兼務 20.4.1 副学長　藤田　禎三
（理事）
兼務 20.4.1 学生部長　藤田　禎三
（理事）
兼務 20.4.1 附属病院長　竹之下誠一
（理事）
兼務 20.4.1 医学部長　阿部　正文
（医学部教授）
兼務 20.4.1 看護学部長　中山　洋子
（看護学部教授）
兼務 20.4.1 医学研究科長　阿部　正文
（医学部教授）
兼務 20.4.1 看護学研究科長　横田　素美
（看護学部教授）
兼務 20.4.1 総合科学教育研究センター長　藤田　禎三
（理事）
兼務 20.4.1 事務局長　野崎　洋一
（理事）
兼務 20.4.1 附属学術情報センター長　八木沼洋行
（医学部教授）
兼務 20.4.1 医療人育成・支援センター長　藤田　禎三
（理事）
兼務 20.4.1 医学部附属生体情報伝達研究所長　本間　好
（医学部教授）
兼務 20.4.1 医学部附属放射性同位元素研究施設長
本間　好
（医学部教授）
兼務 20.4.1 医学部附属実験動物研究施設長　小林　和人
（医学部教授）

◎新任教授
採用 20.3.1 医学部内科学第一講座　教授　竹石　恭知
昇任 20.4.1 看護学部総合科学部門　教授　中山　仁

◎新任准教授
採用 20.3.1 医学部神経精神医学講座
准教授　矢部　博興
発令 20.3.1 附属病院輸血・移植免疫部
准教授　菅野　隆浩
発令 20.4.1 医学部小児科学講座　准教授　川崎　幸彦
採用 20.4.1 看護学部ケアシステム開発部門
准教授　大竹眞裕美
発令 20.4.1 附属病院医療情報部　准教授　竹内　賢
発令 20.4.1 附属病院医療情報部　准教授　青田　恵郎
発令 20.4.1 附属病院総合周産期母子医療センター
准教授　藤森　敬也
発令 20.4.1 附属病院病理部　准教授　田﨑　和洋
発令 20.5.1 医療人育成・支援センター
准教授　石川　和信
発令 20.5.1 医療人育成・支援センター
准教授　大谷　晃司
発令 20.5.1 附属病院臨床腫瘍センター
准教授　石田　卓
昇任 20.6.1 医学部病理学第二講座　准教授　杉野　隆

◎新任講師
昇任 20.4.1 医学部内科学第三講座　講師　緑川　早苗
採用 20.4.1 看護学部ケアシステム開発部門
講師　高瀬　佳苗
採用 20.4.1 看護学部応用看護部門　講師　三浦　浅子
発令 20.4.1 附属病院性差医療センター
講師　小宮ひろみ
昇任 20.5.1 医学部内科学第一講座　講師　齋藤　修一
昇任 20.5.1 医学部呼吸器内科学講座　講師　谷野　功典
昇任 20.5.1 医学部眼科学講座　講師　齋藤　昌晃

◎新任事務局職員等
昇任 20.4.1 附属病院事務部長　小野　俊六
転入 20.4.1 事務局参事兼総務課長　熊本　俊博
発令 20.4.1 企画財務課長　関根　宏幸
発令 20.4.1 学生課長　関根　俊一
転入 20.4.1 病院経営課長　清野　隆彦
発令 20.4.1 病院経営課医療連携・相談室長　五十嵐宏治
発令 20.4.1 医事課長　鈴木　賢司
転入 20.4.1 事務局主幹　小池喜司雄
転入 20.4.1 総務課主幹　宮村　安治
発令 20.4.1 総務課主幹　伊藤　俊一
転入 20.4.1 企画財務課主幹　五十嵐精二
発令 20.4.1 学生課主幹　飯野　俊
転入 20.4.1 病院経営課主幹　鈴木　正彦
発令 20.4.1 医事課主幹　酒井　英資

◎大学健康管理センター
兼務 20.4.1 所長　安村　誠司
（医学部教授）

■ 新任あいさつ

理事長就任ごあいさつ

理事長兼学長　**菊　地　臣　一**

後世、史家は今の時代を「日本の医療の転換点」と位置付けるに違いありません。本学は、多種多様な人々が一体となって治療という只一つの目標達成を目的として働いている機能集団の場です。この機能集団が、組織として時代に即応して生き抜くには幾つかの条件があると私は感じています。

第一の条件は、「情報の共有化」です。組織にとって隠さなければならない情報（intelligence）など殆どありません。与えられた情報の量や質が同じだと、誰が決定しても選択肢は殆ど変わりません。この手法により、「満足は生まなくても納得は得られる」という組織運営が可能になります。

第二の条件は、「朝令暮改」の勧めです。これだけの激動期に、制度やシステムの変化に対応していくには柔軟な思考とそれに応じた行動が必要です。組織のトップが「風を待っている軒下の風鈴」では、組織は容易に衰退（変質）してしまいます。朝令暮改の政策転換に道義的な根拠を与えるのは、「情報の共有化」とともに、「無私の精神」です。これにより、100％の人は説得出来なくても、60～70％の人を納得させるのは可能であると信じています。

第三の条件は、「複眼の視点」です。各職員が、自分の働いているその組織の一員であることや自分の職場に誇りを持つこと、そしてこれら職員の視点と同時に、患者、設置者である県、そして県民や国民からの視点をも導入しての組織としての意志決定が、組織の円滑な管理・運営、そして発展にあたっては必須だと感じています。

第四の条件は、「問題対応型」から「問題設置型」への発想の転換です。問題対応型では、我々が何を目指して何処へ行こうとしているのかが打ち出せません。勿論、周囲にも分かってはもらえません。自分達で問題を設定して、内部の人は勿論、外部の人達にも広く知ってもらう努力が必要です。そのためには、組織のあらゆる職種、世代の人々が問題設定とその解決に参加することです。このような発想の転換により、大学は世間からも理解や支持が得られやすくなると感じています。

第五の条件は、「経済的自立なくして自由なし」という認識です。大学は教育機関だから赤字は当然とか、教育には投資は必要だと言っているだけでは、設置者や国からの介入を招くだけです。現に、我が国の医療界は、既に professional freedom を失いつつあります。大学の自治や裁量権の獲得には、自ら汗して経営の原資を得る必要があります。それを達成して初めて professional freedom を獲得出来る筈です。

第六の条件は、「積極的な広報」です。大学人は、得てして自分の専門領域のことにはその領域の人々に対して饒舌な位、雄弁です。しかし、国や県の財政が危機的な状況である以上、我々の仕事の実績や貢献を積極的に外に向かって発信する必要があります。「知られざるを憂えず」は今の時代、残念ながら通用しません。

以上のような理念を実現させる為に、私が理事長就任にあたって打った手は、第一に、医科大学法人経営企画会議の設置です。これは、私が病院長の時代に病院経営企画会議を立ち上げ、毎週開催して問題をその都度処理した結果、病院経営が好転した成功体験に基づいたものです。この組織の設置により両学部と病院との情報交換を密にして、組織内合意を容易にすることが可能になることが期待出来ます。もう一つは、参与制の創設です。従来、学長の基には官房機能がありませんでした。そこでブレーン、且つ手足となって働いてくれる参与を置き、秘書役となって働いてくれる主幹兼副課長の任命と共に、秘書２人の支援を仰いで迅速な行動を取りたいと考えています。職員の皆様にも御理解と御支援をお願いします。

就任のごあいさつ

副理事長（企画・人材開発担当）
兼企画室長　**丹　羽　真　一**
（医学部 神経精神医学講座 教授）

本年４月１日より公立大学法人福島県立医科大学理事（副理事長、企画・人材開発担当）を拝命しました丹羽です。これまで２年間、企画・人材開発担当理事を仰せつかってまいりましたが、この度は新たに副理事長として菊地理事長を補佐する仕事をいただきました。もとより非力でございますが、法人としての新たな歩みを始めました福島県立医科大学の発展のために尽くしたいと思いますので、よろしくご指導とご協力をお願い申し上げます。

企画・人材開発担当の業務分担の範囲は広いのが特徴で、具体的には、１）将来計画、２)地域医療貢献、３）中期目標、中期計画、年度計画の見直しと進行管理、４）広報、５）プロジェクト毎の業務遂行、６）重点研究支援、７）公開講座・講演会開催、および８）国際交流、ということになります。

特に今年度は、光が丘移転20周年、看護学部開設10周年、事務以外の職員全員が法人職員となる完全法人化の年にあたりまして、新理事会体制の発足にふさわしい記念すべき年に当たります。大学はこの記念すべき時期を新しい大学の出発の年と位置づけ、それにふさわしい一連の事業を

「アニバーサリー2008」と題して６月から11月にかけて行うことといたしております。６月22日に記念式典を行い、県知事と学生、理事長が対談し、高久自治医大学長による「我が国の医療と医学教育」のご講演をいただきます。記念式典の後は引き続いて、学生による新しい大学の進むべき道についてのプレゼンテーションコンテスト、大学シンボル・大学をアピールするキャッチフレーズ募集、学生歌作成などを行います。また、今後は10年先の大学をイメージした大学ビジョン策定を、全大学人からの意見公募などに基づいて行います。これらの行事のまとめの場として、11月２日に県民に公開する成果発表会を行います。これら一連の行事を財政面から支える募金活動を行っておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

上に述べましたように、企画・人材開発担当理事の課題として地域医療貢献の課題がありますが、福島県から大学に対して「会津統合病院（仮称）の福島医大附属病院化について検討するように」との依頼がありますので、ワーキンググループの先生方と共に検討を進めているところです。

法人の中期目標の見直し作業が福島県で行われることに対応して作業を進めること、その中に含まれている「教職員評価、およびそれと連動するインセンティブの強化」も求められている課題です。評価室と共に検討を進めます。

今後の大学の発展を保障する研究事業の発展のためには、大型の研究費の獲得が必要です。企画・人材開発担当は教育研究担当理事と協力しながら、大型研究費の獲得に必要な体制作りをします。

大学の国際交流のひとつとして中国の武漢大学との交流事業が行われてきましたが、今年度は５年間の契約が終わる年ですので、武漢大学との交流を継続しつつ、国際交流の発展の計画を進めたいと考えています。

今後２年間の間に、これらの事業を進めてゆきますので、ご理解とご支援をお願いいたします。なお、アニバーサリー2008の諸事業推進のための募金にご協力いただける方は、公立大学法人福島県立医科大学事務局企画財務課（ＦＡＸ 024－547－1991）へご連絡をお願い申し上げます。

総合科学教育研究センター長兼医療人育成・支援センター長に就任して

理事（教育研究担当）
兼副学長兼学生部長
兼総合科学教育研究センター長
兼医療人育成・支援センター長
藤　田　禎　三
（医学部 免疫学講座 教授）

本年４月から、医学部総合科学系と看護学部総合科学部門を統合し、新たに総合科学教育研究センターが誕生しました。自然科学系領域と人文社会系領域に分かれており、前者は岡田教授が、後者は志賀教授が領域長になっております。総合科学教育研究センターは、総合教育を実施するとともに、そのあり方についても研究する組織であり、医学看護学の基本となる部分を支える重要な役割を担っていると考えられます。

また、同じように４月から医療人育成・支援センターが設立されました。その業務は、「新医師確保総合対策」に伴う医学部入学定員増に対応し、医学教育を全般的に支援する部門と、いわゆる卒後臨床研修センターの機能を担う部分を統合的に実施しようとするものです。そのため、医療人育成・支援センターには、医学教育部門と臨床医学教育研修部門の２部門をおき、それぞれ兼任の教授と専任の准教授がおかれています。前者には、医学学生部長の福島教授と石川和信准教授が、後者には、大戸教授と大谷晃司准教授が選ばれております。このセンターの大きな目的は、本学の医学教育、卒後研修を充実させ、福島県での医師の確保にあることは言うまでもありませんが、本学の教育研究の質を高めることが最も重要であると考えます。そのために本学の皆様のお力添えをお願いする次第です。

病院長（医療担当 理事）就任のごあいさつ

理事（医療担当）
兼附属病院長　**竹之下　誠　一**

就任にあたっての挨拶ということで、私なりの考えを申し上げます。

少子高齢化が急速に進む日本において、医療制度の改革は、「解決すべき国家としての大きな課題」でありました。小泉改革の時にすでに、今回の後期高齢者医療制度の変更の骨格は答申されていましたが、郵政民営化などにより大きな改革の陰に隠れて、大した検討も行われること無く、あっという間に既定路線に組み込まれたという印象です。一方、医療にたずさわる多くの方は、これらの変更される制度だけでなく、「医療そのものが大きな変化に飲み込まれている」という感覚が実感だと思います。例えば最近になって目立ってきたのは、体力や健康増進などを含めた予防医学の奨励による疾病の発生率の抑制や、後発医薬品の普及を通じて医療における支出の削減など一連の制度改革です。しかし、問題なのは、改革の是非の前に、これらの流れの中で、医師や看護師を含めた医療関係者の負担が増え続けていることです。確実に医療関係者の激務や、施設自体の運営の困難が浮き彫りとなっています。また医療訴訟の増加で、医療行為の透明性が強く求められ、医療事故のおきやすい外科、産婦人科、小児科などの医師の減少傾向に歯止めはかからず、地域や所得の医療格差もより明らかになってきました。しかもこの混沌とした情勢の中で、医療機関の厳しい生き残り競争はますます加熱しておりま

す。より患者に軸足をおいた顧客満足度の高い運営を行う医療機関の増加は当然の流れです。

この厳しい状況で我々は、大学病院という教育・研究・診療の三位一体の基本理念を維持しつつ、顧客満足度の高い病院という両立自体が困難で、しかも、「健全な病院運営」という基本姿勢が求められています。そこで、この危機を乗り越えるための具体的な日々のチェックポイントとして、「現状分析や状況の把握・問題意識を、組織を超えて横断的に共有し、共通理解のもとに対処する体制」、すなわち、「病院内や大学にまたがる問題解決のため、担当の責任分担を明確にした上で、必ず期限をきり、解決にあたるという体制」をさらに強化致したいと思っております。ご協力お願い致します。

附属学術情報センター長就任のごあいさつ

附属学術情報センター長
八木沼　洋　行
（医学部 神経解剖・発生学講座 教授）

本年４月１日付けで附属学術情報センター長に就任いたしました。

学術情報センターは、平成18年４月の公立大学法人化に合わせて、それまでの附属図書館と附属展示館の機能を統合したもので、図書、学内情報システム、視聴覚資料、標本展示の管理を担当します。学内情報システムには、web上に公開された研究者データベースも含まれますので、学内のありとあらゆる学術情報がセンターに集められ、学内での教育や研究活動における効率的な活用とともに、大学の外に向かっての効果的な情報発信が図られることになります。

学術情報センターとしての地域貢献の一つとして、県内随一の医学系図書館として広く県民の方々にも利用していただくことがあります。これは、法人化以前の平成16年度から実施されており、利用者は年々着実に増えています。現在は学外の医療従事者による利用が多いようですが、今後は一般の方にも大いに利用していただきたいと思っています。研究支援のための学術雑誌の購入整備は図書館として最も重要な機能と考えていますが、どうしても限られた運営費交付金と年々高騰する雑誌単価のせめぎ合いになってしまい、研究者の皆さんのご希望に添えない状況が続いています。この２年間で冊子体中心から電子ジャーナル中心に大きく変化しており、この流れは今後も続くものと思われます。ただ、やはり図書館として情報の蓄積を図ることは重要で、必要な冊子体の購入は続ける必要があると考えています。

展示館が有しておりました視聴覚資料や標本の整理とデータベース化の作業が進捗中です。今後とも教育活動における有効な活用を促進していきたいと考えています。視聴覚資料の一部は学内ネットワークにおいても利用可能となっていますのでご利用下さい（VISUALEARN）。

学内情報システムは昨年度、両学部の情報教育システムの統合を行い、新たに看護学部棟３階に情報処理演習室を整備しました。また、来年度は情報ネットワークのサーバ機器の更新の時期にあたり、これから具体的な検討に入ります。ネットワーク導入後２度目（10年目）の更新ということで、この間の様々な環境の変化に対応して、ムダを省き、利用者の希望や各部門のこれからの展開に対応できるようなシステムにしたいと考えています。

以上、学術情報センターの現状と今後の展望についてご紹介いたしました。皆様のご支援と積極的なご利用をお願いいたします。

トランスレーショナルリサーチセンター開設にあたって

トランスレーショナル
リサーチセンター長
錫　谷　達　夫
（医学部 微生物学講座　教授）

本年４月１日にトランスレーショナルリサーチ（TR）センターが新設され、初代センター長として就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

トランスレーショナルリサーチ（TR）とは「大学が持つ基礎的な研究成果を実社会に応用、活用するための研究」をいいます。医薬や診断薬に関しては、臨床治験の前段階の研究ということになりますが、社会に生かせる医学研究はこの分野に限りません。ですから、TR センターではもっと幅広い分野の産官学共同研究のお世話をさせていただくことになると思います。これまでも、それぞれの部署で、独自の技術やアイデアを生かした産官学共同研究は進められていることと存じますが、このような個々の部署の研究では他大学の大きなラボにはなかなか太刀打ちできません。興味を共有する複数の部署が、それぞれのアイデアや特技を持ち寄って１つのプロジェクトを共同で進める必要があるのではないでしょうか。学内での共同研究の環を広げ、それによって展開される複数の部署による産官学共同研究のお手伝いをするのが TR センター設置の目的です。現在、センターで扱っている研究は、昨年度から始まった NEDO のプロジェクトだけですが、今後、第２・第３のプロジェクトを展開しなくてはなりません。そのために、学外での広報にも努めますが、研究能力の向上や若手人材の育成を目指した学内の共同研究を進めていただきたいと切にお願いする次第です。

本学の教育、研究の発展のため、ＴＲセンターの活動にご理解、ご援助を何卒宜しくお願い申し上げます。

教授就任ごあいさつ

医学部 内科学第一講座
教授　竹　石　恭　知

このたび内科学第一講座（循環器内科・血液内科）を担当することになりました、竹石恭知です。私は内科一般の研修を終了後、心臓核医学を用いた虚血性心疾患と心筋症の画像診断と病態解明の研究を行いました。その後、関連病院で冠動脈のカテーテル治療（PCI）、心臓電気生理検査（EPS）、カテーテルアブレーションの実践を学びました。大学に戻り、PCI、アブレーション、植え込み型除細動器（ICD）手術、心臓再同期療法（CRT）など、循環器内科の臨床を幅広く行ってきました。留学を契機に、遺伝子改変マウスを用いた心肥大と心不全の分子機序と細胞内シグナル伝達に関する研究を始めました。帰国後は心不全に関する臨床・基礎研究を行ってきました。

私は大学病院に勤務することを、若手医師にとって、医師としてのキャリアを形成するうえで魅力あるものにし、先端医療を学び、研究を行う、そういった環境づくりを推進していきたいと思っています。教室のスタッフと協力し、循環器内科と血液内科領域に関して、幅広くかつ最新の知識と技能を修得することを通じて、高い見識を持った臨床医を養成するとともに、地域に密着した高度医療と世界へ発信する教育・研究拠点の形成を目指したいと考えております。皆様のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

就任のごあいさつ

看護学部 総合科学部門
教授　中　山　　仁

本年４月１日、看護学部教授を拝命いたしました。外国語担当教員として微力ながら本学の教育・研究の発展に努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

専門は英語学（英語を対象言語とした言語学）で、特に言語使用とコンテクストの関係を扱う語用論を中心に研究を行っています。現在は、言葉の理解が人間の認知作用とどのように関係しているかという点に注目した発話解釈理論に基づいて、従来の文法の知識では説明が困難な言語現象について解明を進めています。

本学の教育では、大学で英語を学ぶ意義を学生に強く意識させる授業に努めてきました。というのも、学生にとって英語は馴染みの教科であり、専門用語は別として、学習方法や姿勢については単に高校時代の延長という意識があると思われるからです。確かに、一つの英文を理解するのにはさほど苦労しないかもしれません。しかし、コミュニケーション・ツールとして英語を適切に使うためには、さらに学ぶべきことが残っています。とりわけ、ひとまとまりの英語を聞き（読み）、話す（書く）場合、一つ一つの文は日本語とは違った論理で、有機的に結びついていることが常に意識されていなくてはなりません。それによって、人の話を正しく理解し、自分の考えを相手に誤解なく分かりやすく伝えることが容易になります。これはいわば「大人」の言語コミュニケーション能力に関わる問題であり、「未熟」な高校生にとっては内容的にも方法論的にも射程外の領域です。このようなコミュニケーションの本質を意識した学習を含めた教育が大学には必要であると考えます。さらに、これが日本語を含めた言葉への洞察を深め、ひいては価値観の異なる人々との相互理解にも役立つものと期待しています。

私は、今後もこのような教育を大学英語教育の一つの柱とし、さらなる授業改善に努めていきたいと思います。

諸規程改正

４月１日から、事務局組織の改編（グループ制から課制へ変更）等があったことから、多くの規程が改正されましたが、今回の諸規程の改正では、このような軽微なものの掲載は省略いたしました。

■ 平成20年２月から５月までの諸規程の制定改廃関係

１　「福島県立医科大学倫理委員会規程」の一部改正（平成20年２月１日制定・施行）

各研究において、倫理委員会に申請することのできる職員について、従来限定されていたものを廃し、職種を限定しない旨の改正を行いました。また、関連する他の規程の改正も行いました。

２　「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正（平成20年２月15日制定・４月１日施行）」

大学院における学位審査料について、諸料金の認可者である福島県との協議により、他大学と同等の額である20万円とする旨改正を行いました。

３　「公立大学法人福島県立医科大学職員安全衛生管理規程」の一部改正（平成20年２月19日制定・３月１日施行）

労働安全衛生法等の一部改正に伴い、一定時間の時間外労働等を行った労働者への医師による面接指導等を行うなどの改正を行いました。

４　「公立大学法人福島県立医科大学特任教授等の称号付

与規程」の制定（平成20年２月29日制定・４月１日施行）」
外部研究資金によるプロジェクト研究等を推進する上で欠くことのできない人材に対し、特任教授又は特任准教授の称号を付与する手続き等を規定しました。

5 「福島県立医科大学医療人育成・支援センター教員適任者選考規程の制定（平成20年２月29日制定・４月１日施行）
福島県立医科大学医療人育成・支援センターの教員適任者の選考について必要な事項を規定しました。

6 「公立大学法人福島県立医科大学ハラスメント防止規程」の一部改正（平成20年３月11日制定・施行）
相談者及び関係者のプライバシーを保護するために必要な事項や相談又は調査協力をしたことを理由として不利益な取扱いを行わない旨を規定しました。

7 「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正（平成20年３月17日制定・４月１日施行）
平成20年度の組織改正（トランスレーショナルリサーチセンター、総合科学教育研究センター、医療人育成・支援センターの設置、事務局組織の改編等）に伴い、関係条項の改正等を行いました。

8 「福島県立医科大学医学部副医学部長選考規程」の制定（平成20年３月17日制定・４月１日施行）
平成20年４月１日から副医学部長が新設されることから、選考に関する規定を制定しました。

9 「福島県立医科大学医療人育成・支援センター部門長選考規程」の制定（平成20年３月17日制定・４月１日施行）
平成20年４月１日から医療人育成・支援センターが新設されることから、部門長の選考に関する規定を制定しました。

10 「福島県立医科大学総合科学教育研究センター領域長選考規程」の制定（平成20年３月17日制定・４月１日施行）
平成20年４月１日から総合科学教育研究センターが新設されることから、領域長の選考に関する規定を制定しました。

11 「福島県立医科大学総合科学系講座主任選考規程」の制定（平成20年３月17日制定・４月１日施行）
平成20年４月１日から医学部の総合科学系講座が、大講座に再編されることから、講座主任の選考に関する規定を制定しました。

12 「公立大学法人福島県立医科大学職員に係る管理職員等の範囲を定める規程」の制定（平成20年３月19日制定・４月１日施行）
法人において労働組合に参加することの許されない管理職員等の範囲を定めました。

13 「福島県立医科大学部局長等選考規程」の一部改正（平成20年３月21日制定・４月１日施行）
平成20年４月１日から新設される医療人育成・支援センター長等の追加や学務部長の名称を変更（学生部長）する改正を行いました。

14 「福島県立医科大学医学学生部長等選考規程」の制定（平成20年３月21日制定・４月１日施行）
平成20年４月１日から、医学学生部長、看護学学生部長が新設されることから、選考に関する規定を制定しました。なお、「福島県立医科大学副学務部長選考規程」は、廃止になりました。

15 「福島県立医科大学医療人育成・支援センター規程」の制定（平成20年３月24日制定・４月１日施行）
福島県立医科大学医療人育成・支援センターの設置に伴い、必要な事項等（目的、部門、事務等）を規定しました。

16 「福島県立医科大学医療人育成・支援センター会議規程（平成20年３月24日制定・４月１日施行）
福島県立医科大学医療人育成・支援センター会議について、組織や議長など必要な事項を規定しました。

17 「福島県立医科大学医学部教務委員会規程」の一部改正（平成20年３月24日制定・４月１日施行）
「福島県立医科大学医学部入試委員会規程」の一部改正（平成20年３月26日制定・４月１日施行）
医療人育成・支援センターの新設等により、委員会組織等の改正を行いました。

18 「公立大学法人福島県立医科大学役員会規程」の一部改正（平成20年３月26日制定・４月１日施行）
役員会の開催を原則毎月２回から１回とする旨改正しました。

19 「福島県立医科大学学則」の一部改正（平成20年３月28日改正・４月１日施行）
４月１日から「総合科学教育研究センター」及び「医療人育成・支援センター」が新設されること、また、大学院医学研究科修士課程が開設されることに伴い、所要の改正が行われました。

20 「福島県立医科大学大学院学則」の一部改正（平成20年３月28日改正・４月１日改正）
大学院医学研究科において、新任教授の就任に伴う専攻科目群の新設並びに授業の充実を図るための共通必修科目の増設を行いました。また、大学院看護学研究科において、「生態看護学」を広域分野とし、成人・老人系の幅広い受入を目指し、科目立ての再編を行うとともに、新たに専攻分野として「母性看護学」の新設を行いました。

21 「福島県立医科大学附属病院卒後臨床研修規程」の一部改正（平成20年３月27日制定・４月１日施行）
平成20年４月から医療人育成・支援センターが設置されることに伴い、卒後臨床研修に係る各種委員会構成員に、医療人育成・支援センター臨床医学教育研修部門長を加えるための改正を行いました。

22 「福島県立医科大学附属病院後期研修（専門養成コース）規程」の一部改正（平成20年３月30日制定・４月１日施行）

平成20年４月から医療人育成・支援センターが設置されたことに伴い、後期研修管理委員会の構成員の追加、及び文言様式等の改正が行われました。

23 「公立大学法人福島県立医科大学職員研修規程の制定（平成20年３月31日制定・施行）

平成20年度から看護師等が県からの派遣職員から法人職員に切り替わることから、平成20年度以降の法人職員の研修について、必要な事項を定めました。

24 「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正（平成20年３月31日制定・４月１日施行）

役職員宿舎の借上料について、福島県の公舎入居料に準じ、引上げを行うとともに、厚生労働省からの先進医療に係る届出の受理通知に基づく病院使用料（抗がん剤感受性試験、早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索）の追加を行いました。

25 「福島県立医科大学総合科学教育研究センター規程」の制定（平成20年３月31日制定・４月１日施行）

福島県立医科大学総合科学教育研究センターの設置について、必要な事項を規定しました。

26 「福島県立医科大学総合科学教育研究センター運営委員会規程」の制定（平成20年３月31日制定・４月１日施行）

福島県立医科大学総合科学教育研究センターの運営に関する重要な事項を審議するための運営委員会について、必要な事項を規定しました。

27 「公立大学法人福島県立医科大学任期付教員就業規則」の制定（平成20年３月31日制定・４月１日施行）

NEDO プロジェクト公募事業やがんプロフェッショナル養成プラン等のプロジェクト研究等を実施するにあたり、欠くことのできない優秀な教員を雇用するため、任期制度を導入し、その任期付教員の就業について、必要な事項を定めました。

28 「公立大学法人福島県立医科大学診療医就業規則」の一部改正（平成20年４月１日制定・施行）

「公立大学法人福島県立医科大学後期研修医就業規則」の一部改正（平成20年４月１日制定・施行）

ドクターヘリの運用に伴い、給与の種類として航空業務手当を追加するとともに、通勤手当について、公立大学法人福島県立医科大学准職員及び非常勤職員給与規程に準ずる旨規定しました。

29 「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医就業規則」の一部改正（平成20年４月１日制定・施行）

ドクターヘリの運用に伴い、給与の種類として航空業務手当を追加しました。

30 「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医就業規則」の一部改正（平成20年４月１日制定・施行）

通勤手当について、公立大学法人福島県立医科大学准職員及び非常勤職員給与規程に準ずる旨規定しました。

役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会

■ 役員会

【平成20年４月１日　第１回役員会】

・「公立大学法人福島県立医科大学法人経営企画会議」の設置

公立大学法人福島県立医科大学法人経営企画会議要綱に基づき、教育、研究及び診療に関する方針、計画及び管理運営について、調整・協議を行い、役員会の審議円滑化に資することを目的とする同会議の設置が承認された。

（構成員）

理事長、副理事長、副学長、経営・渉外担当理事、医学部長、看護学部長、看護学研究科長、附属病院長、事務局長、参与

■ 経営審議会

【平成20年３月21日　第６回経営審議会】

・平成20年度予算（案）

平成20年度予算（案）が承認された。

・公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程の一部改正

公舎入居料の変更、先進医療に係る病院使用料の追加が承認された。

・公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程の一部改正

学内組織名称の変更及び組織の新設による改正が承認された。

・福島県立医科大学附属病院規程の一部改正

附属病院の組織体制の整備を図るため、感染制御部・性差医療センターの設置、診療科名の臓器別への名称変更、中央部門から中央診療施設への名称変更及び医療支援部から臨床工学センターへの名称変更が承認された。

・平成20年度の年度計画（案）

平成20年度の年度計画（案）が承認された。

■ 教育研究審議会

【平成20年３月21日　第７回教育研究審議会】

・福島県立医科大学学則の一部改正

新年度から「総合科学教育研究センター」及び「医療人育成・支援センター」が新設されること、更に大学院医学研究科に修士課程が開設されることに伴う改正案が承認された。

・福島県立医科大学大学院学則の一部改正

医学研究科において新任教授就任に伴う専攻科目群の新設並びに共通必修科目の増設、看護学研究科において、生態看護学を広域分野として、科目立ての再編を行うとともに、新たな専攻分野を新設する改正案が承認された。

・平成20年度年度計画（案）

平成20年度中に中期目標の見直しが予定されていることから、今年度の計画を継承し、部分的な修正を行った形での年度計画について審議を行い、原案のとおり承認された。

・公立大学法人福島県立医科大学教育研究審議会運営内規の制定

教育研究審議会の円滑な運営を図るため、審議会運営に係る具体的な事項（開催時期、議題、審議の非公開等）を定めた内規を制定した。

・公立大学法人福島県立医科大学任期付教員就業規則の制定

NEDO プロジェクト公募事業やがんプロフェッショナル養成プラン等を実施する上で必要な任期付教員を雇用するため、任期付教員の就業規則案が審議され、承認された。

【平成20年４月１日　第２回臨時教育研究審議会】

・名誉教授称号授与

本年３月31日付けで退任された髙地英夫氏に対し、名誉教授授与が決定された。なお、称号の授与日については、本年の４月１日付けとされた。

■ 医学部教授会

【平成20年３月19日定例教授会】

・医学部予算委員会委員の選任

次のとおり選任された。

生命科学・社会医学系から

橋 本 教 授（生化学講座）

錫 谷 教 授（微生物学講座）

臨床医学系から

大 平 教 授（内科学第二講座）

大 戸 教 授（輸血・移植免疫部）

総合科学系から

小林㈲教授（物理学講座）

任期は、平成20年４月１日から１年間

・医学部教務委員会委員の一部改選

次のとおり選任された。

八木沼教授（神経解剖・発生学講座）

錫 谷 教 授（微生物学講座）

安 村 教 授（公衆衛生学講座）

小林㈱教授（生体機能研究部門）

大 平 教 授（内科学第二講座）

大 戸 教 授（輸血・移植免疫部）

岡 田 教 授（数学講座）

任期は、平成20年４月１日から２年間

・医学部入学試験委員会委員の一部改選

次のとおり選任された。

橋 本 教 授（生化学講座）

木 村 教 授（薬理学講座）

福 島 教 授（衛生学・予防医学講座）

平 岩 教 授（法医学講座）

後 藤 教 授（外科学第一講座）

上 田 教 授（形成外科学講座）

山 本 教 授（皮膚科学講座）

清 水 教 授（外国語講座）

竹 石 教 授（内科学第一講座）【健康診断担当】

任期は、平成20年４月１日から２年間（ただし、健康診断担当の任期は１年間）

・附属学術情報センター運営委員会委員の推薦

次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。

生命科学・社会医学系から

橋 本 教 授（生化学講座）

浄土准教授（神経生理学講座）

臨床医学系から

山 本 教 授（皮膚科学講座）

竹内准教授（医療情報部）

総合科学系から

小林㈲教授（物理学講座）

福田准教授（人文社会科学講座）

■ 看護学部教授会

【平成20年３月18日定例教授会】

・附属学術情報センター運営委員会委員の推薦

次のとおり推薦され、その後、理事長から任命された。

本 多 教 授（生命科学部門）

林　教　授（総合科学部門）

竹 谷 教 授（ケアシステム開発部門）

中山准教授（総合科学部門）

任期は、平成20年４月１日から２年間

【平成20年４月15日定例教授会】

・看護学部学務委員会委員の選任

次のとおり選任された。

太 田 教 授（家族看護学部門）

結 城 教 授（ケアシステム開発部門）

中 山 教 授（総合科学部門）

鈴 木 教 授（生命科学部門）

志 賀 教 授（総合科学部門）

高橋准教授（生態看護学部門）

大川准教授（ケアシステム開発部門）

佐 藤 講 師（家族看護学部門）

川 島 講 師（基礎看護学部門）

平 田 講 師（生態看護学部門）

稲 毛 講 師（ケアシステム開発部門）

任期は、平成22年３月31日まで。

・看護学部研究予算委員会委員の選任
次のとおり選任された。
林　教　授（総合科学部門）
荒 川 教 授（生態看護学部門）
太 田 教 授（家族看護学部門）
真 壁 教 授（応用看護学部門）
横 田 教 授（基礎看護学部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

・看護学部入学試験委員会委員の選任
次のとおり選任された。
加 藤 教 授（生命科学部門）
亀 田 教 授（総合科学部門）
志 賀 教 授（総合科学部門）
太 田 教 授（家族看護学部門）
真 壁 教 授（応用看護学部門）
小平准教授（生態看護学部門）
大竹准教授（ケアシステム開発部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

・看護学部ファカルティ・ディベロップメント委員会委員の選任
次のとおり選任された。
竹 谷 教 授（ケアシステム開発部門）
畠山准教授（家族看護学部門）
立 柳 講 師（総合科学部門）
工 藤 講 師（基礎看護学部門）
片 桐 講 師（生態看護学部門）
木 村 講 師（家族看護学部門）
古 橋 講 師（応用看護学部門）
石 井 助 教（生態看護学部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

・看護学部紀要委員会委員の選任
次のとおり選任された。
荒 川 教 授（生態看護学部門）
中 山 教 授（総合科学部門）
加 藤 教 授（生命科学部門）
鈴木准教授（生態看護学部門）
伊 藤 講 師（生態看護学部門）
高 瀬 講 師（ケアシステム開発部門）
清 水 助 教（生態看護学部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

・看護学部広報委員会委員の選任
次のとおり選任された。
林　教　授（総合科学部門）
本 多 教 授（生命科学部門）
横 田 教 授（基礎看護学部門）
田 中 講 師（生態看護学部門）
飯 塚 助 教（生態看護学部門）
野 田 助 教（ケアシステム開発部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

・看護学部公開講座委員会委員の選任
次のとおり選任された。
黒 田 教 授（ケアシステム開発部門）
竹 谷 教 授（ケアシステム開発部門）
本 多 教 授（生命科学部門）
石 田 講 師（家族看護学部門）
三 浦 講 師（応用看護学部門）
菅 野 助 教（生態看護学部門）
加 藤 助 教（応用看護学部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

・看護学部国際学術交流委員会委員の選任
次のとおり選任された。
亀 田 教 授（総合科学部門）
黒 田 教 授（ケアシステム開発部門）
石 田 講 師（家族看護学部門）
古 橋 講 師（応用看護学部門）
清 水 助 教（生態看護学部門）
鈴 木 助 教（生態看護学部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

・看護学部図書・情報委員会委員の選任
次のとおり選任された。
本 多 教 授（生命科学部門）
林　教　授（総合科学部門）
中 山 教 授（総合科学部門）
鈴木准教授（生態看護学部門）
大竹准教授（ケアシステム開発部門）
丸 山 助 教（基礎看護学部門）
菅 野 助 教（生態看護学部門）
後 藤 助 教（家族看護学部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

【平成20年５月20日定例教授会】

・看護学部広報委員会委員の選任
次のとおり選任された。
濱 尾 助 教（ケアシステム開発部門）
任期は、平成22年３月31日まで。

雑　　報

■ 倫理委員会

【平成20年１月11日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの（新規申請のみ）】

№651　ベーチェット病における indoleamine 2,3-dioxygenese 活性の検討
（申請者：内科学第二講座　教授　大平弘正）

№652　ペルゴリドの新規導入方法および有効性と安全性の検討

（申請者：神経内科学講座　教授　宇川義一）

№653　直腸癌手術に対する術後感染予防薬の投与期間に関する比較試験
（申請者：外科学第二講座　教授　竹之下誠一）

№654　胃全摘手術に対する術後感染予防薬の投与期間に関する比較試験
（申請者：外科学第二講座　教授　竹之下誠一）

№655　関節症患者検体中オステオポンチン濃度測定の意義
（申請者：内科学第二講座　教授　大平弘正）

№656　特別養護老人ホームにおいて看護職者が実施している医療処置の実態
（申請者：基礎看護学部門　教授　横田素美）

№657　地域における精神障害者家族への支援―精神障害の症状が出てからおおよそ３年までの家族支援について―
（申請者：ケアシステム開発部門
教授　黒田眞理子）

【平成20年２月１日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの（新規申請のみ）】

№658　高悪性度骨軟部腫瘍に対するカフェイン併用化学療法の第Ⅱ相臨床試験
（申請者：整形外科学講座　講師　田地野崇宏）

№659　早期慢性膵炎の診断における酸化ストレスマーカーの有用性と超音波内視鏡所見との対比に関する検討
（申請者：内科学第二講座　教授　大平弘正）

№660　自己血清とヒアルロン酸点眼の合剤による角結膜上皮障害改善効果の非対照試験
（申請者：眼科学講座　教授　飯田知弘）

№661　川崎病の発症病態および治療抵抗性に関与するサイトカイン等の検討
（申請者：小児科学講座　教授　細矢光亮）

№662　臨床の看護師からみたがん看護の現状と課題
（申請者：生態看護学部門　教授　荒川唱子）

№664　StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-１療法の第Ⅲ相比較臨床試験および遺伝子発現に基づく効果予測因子の探索的研究
（申請者：外科学第二講座　教授　竹之下誠一）

№665　光干渉断層計による眼疾患の観察
（申請者：眼科学講座　教授　飯田知弘）

№666　看護実践能力の発達過程と評価方法に関する研究その２：看護実践能力を測定する用具（質問紙）の構成概念妥当性の検討
（申請者：ケアシステム開発部門　教授　中山洋子）

№667　内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）後膵炎危険群に対する内視鏡的自然脱落型膵管ステントの膵炎予防効果に関する多施設共同無作為比較試験
（申請者：内科学第二講座　教授　大平弘正）

№668　脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する調査研究
（申請者：整形外科学講座　准教授　紺野愼一）

№669　「アルコール性膵炎におけるアルコール依存症の検討」および「遺伝子多型とアルコール性膵炎の関連の研究」についての研究
（申請者：内科学第二講座　教授　大平弘正）

№670　高LDL-コレステロール血症を合併する２型糖尿病患者におけるピタバスタチンのインスリン感受性に及ぼす影響についての検討
（申請者：内科学第三講座　教授　渡辺　毅）

【平成20年３月７日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの（新規申請のみ）】

№671　非切除膵頭部癌による胆道閉塞に対するステントの開存性を検討する多施設共同無作為化比較試験
（申請者：内科学第二講座　教授　大平弘正）

№672　乳幼児の感染症による入院の要因分析：１歳６ヶ月健診を基点とした後ろ向きコホート研究
（申請者：公衆衛生学講座　教授　安村誠司）

№673　南会津・只見町における運動器疾患と成人病との関係に関する研究
（申請者：整形外科学講座　准教授　紺野愼一）

№674　頚部脊髄症の自記式問診票の開発
（申請者：整形外科学講座　准教授　紺野愼一）

№675　網羅的プロテオミクス解析による早期膵癌診断マーカーの開発
（申請者：外科学第一講座　教授　後藤満一）

№676　T-CORE 0702切除不能結腸・直腸癌に対するFOLFIRI＋bevacizumab併用療法とIRIS＋bevacizumab併用療法の安全性確認試験
（申請者：外科学第二講座　教授　竹之下誠一）

№677　臍帯血由来間葉系幹細胞の分離培養とその機能に関する基礎的研究
（申請者：小児科学講座　教授　細矢光亮）

№678　早期産児の血漿および気管分泌物中の各種サイトカインと慢性肺疾患の関連に関する検討
（申請者：小児科学講座　教授　細矢光亮）

№679　気管支喘息とアレルギー性鼻炎の合併例におけるアレルギー性鼻炎治療が気管支喘息の病態に与える影響についての検討
（申請者：耳鼻咽喉科学講座　准教授　小川　洋）

№680　初回TS-１療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法―CPT-11単独療法vsTS-１＋CPT-11併用化学療法の無作為化比較第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験―
（申請者：臨床腫瘍センター　部長　寺島雅典）

№681　続発性下肢リンパ浮腫患者の生活実態と複合的理学療法の効果

（申請者：附属病院　主任看護技師　保坂ルミ）

№682　再発または治療抵抗性びまん性大細胞性Ｂ細胞性リンパ腫に対する抗 CD 20キメラモノクローナル抗体 Rituximab と塩酸イリノテカン（CPT－11）の併用療法（第Ⅱ相試験）

（申請者：内科学第一講座　併任准教授　七島　勉）

№683　ダウン症候群に発症した小児急性骨髄性白血病に対するリスク別多剤併用化学療法の後期第Ⅱ相臨床試験 AML-D 05

（申請者：小児科学講座　講師　菊田　敦）

№684　ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を呈する巣状糸球体硬化症に対する LDL アフェレシス療法の有効性に関する多施設共同研究

（申請者：内科学第三講座　教授　渡辺　毅）

編集発行　公立大学法人福島県立医科大学
事務局企画財務課
〒960－1295　福島県福島市光が丘１番地
TEL 024(547)1013　FAX 024(547)1991